

新製品開発におけるフロント・エンド・ローディング

“製品開発と DX 化”

— テーマ創造 —

(株) ジョンキエルコンサルティング 落合以臣

A Front-End Loading in New Product Development

“Product Development and Digital Transformation Conversion”

-The creation of a theme-

Shigemi Ochiai, Jonquil Consulting Inc.

**Keywords :** 新型コロナウイルス・影響・米国・制裁・発動・潰れる・DX 化・転換・経営効率化

### 新型コロナウイルスの猛威と米国の制裁発動のダブルショック

新型コロナウイルスの影響は日々増大し、いつの間にか常態化の気配になりつつあると言っても過言ではないかもしれません。この、新型コロナウイルスの猛威によって、企業のものづくりは根本から覆されたと言えます。また、米国の中国に対する数々の制裁の発動は、さらに世界的なサプライチェーンの構図にも大きな影響を与えています。特に、IT を中心としたスマートフォン、Wi-Fi などの部品を製造しています企業は、ジャブからボディーパンチへと確実に経営を悪化させる状況になりつつあります。しかしながら、米国の制裁発動は、昨年から予測できたことであり、それぞれの企業のリスクマネジメント機能が、作動しなかった、あるいは、もともと何とかなるだろうという他力本願であったと言えるかもしれません。今後も米国の制裁は続き、大企業であってもあつという間に潰れてしまう危険をはらんでいると思います。

こうした状況の中で、企業のものづくりの現場は、どのようになっているのでしょうか。相変わらず、設計変更が多く、金型修正が間に合わない、新型コロナウイルスの影響で工場が休止のところが多いので、部品製作が遅れるなどです。一方では、経営企画部門を中心とした DX（デジタルトランスフォーメーション）への転換だ・転換だと、何か新天地でもあるかのように突き進もうとする企業が多く見られます。ただ、DX 化を否定しているわけではありませんので、ご理解のほどお願いいたします。

こうしたことに鑑みますと、ものづくり現場と経営の距離が益々遠ざかり、武漢から発症した新型コロナウイルスの影響を災いとして福と転じて行くべきところ、流行に乗れば何とかなるだろうという簡単な方向へ舵を切っている経営者が多いと言えます。

### 製品開発と DX 化

製品開発において、現時点で必要なことは、円高を背景にして世界へ散らばってしまったものづくりを、どのようにして効率よく連携させて行くかということであると思います。すべてを効率よくとは行かないので、筆者は製品開発の中で設計、金型製作、試作品を取り上げ、この部分の DX 化が重要であると考え、中国に拠点を置く金型製作会社とビデオミーティングを通して、設計、金型製作、試作品の流れを一体化させ、過去の製品に当てはめたところ、部分的に修正すべき点はあるものの、DX 化がかなり効力を発揮することがわかりました。ご興味がありましたら、弊社へお問い合わせください。

ここで、DX そのものの起源を辿って見ますと、Wikipedia によれば DX という言葉の起源は、2004 年にスウェーデンのウメオ大学のエリック・ストルターマン教授によって提唱された概念で、「IT の浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」ことを指すそうです。これを企業に置き換えますと、企業自身が直面している厳しい事業環境に、データとデジタル技術を融合させて、企業の現、あるいは未来の顧客や社会のニーズを先取りし、製品、サービス、ビジネスモデルを大きく転換させることによって、現状までの組織、プロセス、企業文化・風土などを一変させることと言えます。簡略すれば、「情報（データ）とデジタル技術を融合させて上手く使えば、ビジネスに直結した経営活動に効果的に働く」とでも言いましようか。しかしながら、DX 化を推進したからと言って、企業間競争の優位性を確保できるというわけではありません。ここのところを多くの企業は勘違いしているとも言えます。詳しくは、経済産業省が DX 推進ガイドラインとして発行しています「デジタルトランスフォーメーションを推進するためのガイドライン Ver. 1.0」をご覧ください。